

「2020 年までにすべての化学物質による人の健康や環境への影響を最小化」することが国際的に合意され、国内でも様々な対応が進みつつありますが、課題も多く残されています。これらの新たな課題について、最新の研究動向を紹介するとともに関係者が集まって議論するために、環境科学会 2012 年会にて2つのシンポジウムを企画しました。いずれも、これまで化学物質管理の研究に長年携わってきた本学教員や、本学出身の研究者が多数参画します。化学物質管理に携わる皆様にはぜひ議論に加わっていただければ幸いです。

開催日	環境科学会 2012 年会 : 2012 年 9 月 13 日(木)、14 日(金) ※ ご紹介するシンポジウムは 9 月 14 日です。9 月 13 日の夕方には懇親会も開催予定です。
開催場所	横浜国立大学 理工学部講義棟 A

シンポジウム6 9月14日(金) E会場 午前 (9:00~12:00) オーガナイザー 益永茂樹・小林 剛

主旨など	<p>「化学物質のライフサイクルを通じたリスク評価の最新研究」 国際化学物質管理会議で採択された国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ(SAICM)では、2020 年までに「化学物質のライフサイクルを通じたリスク評価に基づき、費用と便益、より安全な代替物質の利用可能性とそれらの有効性に配慮しつつリスクを最小化」する必要性が明記され、各国の取り組みが始まっている。わが国でも化学物質リスク評価への取り組みがなされているが、その評価はライフステージや用途が限られていることが多く、ライフサイクルを通じたリスク評価手法の確立が求められている。本シンポジウムでは、全ライフサイクルリスクの評価事例の提示やその手法の一般化に向けた展望や今後の課題について議論する。 関連プロジェクト : 環境省環境研究総合推進費「HBCD 等の製品中残留性化学物質のライフサイクル評価と代替比較に基づく環境リスク低減手法(代表:益永茂樹)」、 環境省環境研究総合推進費「産業環境システムの耐リスク性(代表:東海明宏)」</p>	
	講演	<p>「耐リスク性評価手法の提案とその適用」 東海 明宏 (大阪大学)教授 「鉛はんだのリスクトレードオフ評価」 恒見 清孝 (産業技術総合研究所)グループ長 「製品中 HBCD のライフサイクル評価と代替比較に基づく環境リスク低減」 益永 茂樹 (横浜国立大学)教授 「フィジカル暴露シナリオに基づく HBCD 含有プラスチックのハザード解析」 吉野 悟 (日本大学)助教 「リスク評価のための多様な曝露シナリオの評価」 小林 剛 (横浜国立大学)准教授 進行:真名垣聡(横浜国大)産学連携研究員(講師相当)</p>

シンポジウム7 9月14日(金) D会場 午後 (13:30~15:30) オーガナイザー 三宅祐一・堀井勇一

主旨など	<p>「未規制化学物質の測定・評価・管理に関する最新研究課題～若手研究者からの発信～」 2002 年に開催された持続可能な開発に関する世界サミット(WSSD)において、「2020 年までにすべての化学物質による人の健康や環境への影響を最小化」することが合意された。既存の化学物質に関しては、評価・管理の枠組みが出来上がりつつあるが、未知物質を含めた未規制の化学物質に関する研究課題は非常に多い。本シンポジウムでは、今後注目される可能性がある化学物質に関する最新情報や、最新の未知物質の計測・評価技術に関する研究成果などを報告し、今後の課題について議論することを目的としている。 関連プロジェクト:環境研究総合推進費「廃棄物焼却施設におけるハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成機構解析とリスクベース管理手法の提案(代表:三宅祐一)」</p>	
	講演	<p>「新規 PBT 候補物質 揮発性メチルシロキサンの環境分析法の最前線」 堀井 勇一 (埼玉県環境科学国際センター)主任 「ハロゲン化多環芳香族炭化水素類の排出実態とリスク評価への展開」 三宅 祐一 (静岡県立大学)助教 「ライフサイクル視点からの臭素系難燃剤 HBCD とその関連化合物の排出分析」 真名垣聡 (横浜国大)産学連携研究員(講師相当) 「GCxGC-MS 技術を用いた新たな定量分析法の開発と未知汚染物質の検索手法の検討」 頭士 泰之 (国立環境研)JSPS 特別研究員 「化学物質リスクの検索同定と評価の試み～バイオアッセイ/化学分析によるアプローチ～」 鈴木 剛 (国立環境研究所)研究員</p>

(参考)その他のシンポジウム企画：他にも環境関連のシンポジウムが予定されています。

9月13日 午前	シンポジウム-1 「環境配慮型消費研究から持続可能なライフスタイル研究への転換」 Org. 青柳みどり(国立環境研究所)・田崎智宏(国立環境研究所)
9月13日 午後	シンポジウム-2 「農薬分解物の安全性、環境中濃度、浄水処理性：農薬分解物の環境安全管理を目指して」 Org. 高梨啓和(鹿児島大学)・亀屋隆志(横浜国立大学) シンポジウム-3 「旭硝子財団 環境研究近藤次郎グラント発表会」 Org. 岡田光正(放送大学)・鈴木基之(放送大学) シンポジウム-4 「環境経済評価における異質性」(学術賞受賞記念シンポジウム) Org. 肥田野 登(東京工業大学)・加藤尊秋(北九州市立大学)
9月14日 午前	シンポジウム-5 「開発途上国での持続可能なバイオマスタウンの実現に向けて」 Org. 迫田章義(東京大学)・望月和博(東京大学) シンポジウム-6 「化学物質のライフサイクルを通じたリスク評価の最新研究」 Org. 益永茂樹(横浜国立大学)・小林 剛(横浜国立大学)
9月14日 午後	シンポジウム-7 「未規制化学物質の測定・評価・管理に関する最新研究課題～若手研究者からの発信～」 Org. 三宅祐一(静岡県立大学)・堀井勇一(埼玉県環境科学国際センター) シンポジウム-8 「地域レベル温暖化防止計画の策定・目標管理と環境指標・環境情報」 Org. 中口毅博(芝浦工業大学)・田中 充(法政大学)

参加登録	当日、受付で参加票に必要事項をご記入の上、下記の参加費を添えて参加登録してください。 参加費 6,000円(正会員)、3,000円(準会員)、9,000円(非会員)、5,000円(非会員学生) ※参加登録されると、他のシンポジウムやセッションにもご参加いただけます。 また、年会要旨集が配布されます。 ※事前申込みは必要ないのですが、会場準備の関係で非会員の方で参加される方がありましたら、 下の連絡先 までご一報いただければ幸いです。
------	--

環境科学会や年会について

環境科学会ホームページ

<http://www.ses.or.jp/>

環境科学会入会案内ホームページ

<http://www.ses.or.jp/nyukai>

2012 年会ホームページ

<http://www.ses.or.jp/conference/2010conference>

※順次、一般セッションでの口頭発表やポスター発表についてのプログラムが公表されます。ご確認下さい。

横浜国立大学までのアクセスなど

横浜国立大学アクセス案内ホームページ

<http://www.ynu.ac.jp/access/index.html>

横浜国立大学大学院環境情報研究院

<http://www.eis.ynu.ac.jp/>

安心・安全の科学研究教育センター

<http://www.anshin.ynu.ac.jp/>



本案内状に関する連絡先：横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター 小林 (koba@ynu.ac.jp)
本案内は横浜国大から送付しています。本件については、学会ではなくこちらにご連絡下さい。